



この人に聞く下田まち遺産。

「黒船」・「異文化交流」をテーマにお寺にブランド力を。

了仙寺(下田認定まち遺産)を管理する松井さんに聞きました。

了仙寺住職 松井大英さん

昭和32年生まれ。現在56歳。ハワイ大学大学院終了後、現在は了仙寺にて日本開国の歴史を伝えている。

聞き手：小川(建設課)



宝物館内部



日本人に描かれたペリー提督の肖像画

絵：了仙寺 蔵

古いものを活かすには新しい風を入れることが重要

異文化交流発祥の地、下田。

黒船ゆかりのお寺として、開国の歴史にどういった思いがあるのでしょうか。

日本では「黒船」イコール「外圧」の代名詞となっていますが、下田には、それは当てはまらないと思っています。また、下田は「開国のまち」と言われていますが、最初にペリー艦隊が来航したのは久里浜で、条約が先に結ばれたのは横浜です。それではなぜ、下田が「開国のまち」と呼ばれているか。それは、1854年に黒船が下田に来航して、乗船していた外国人



が初めて街中で自由に歩くことが許され、日本で初めて外国人に開放された町だから、下田は「開国のまち」なのです。つまり、異文化交流が生まれた町なのです。黒船ゆかりのお寺として、まずはそこを知っていただきたいという思いがあります。

3000点以上の資料を収集。

幕末開国時代の資料を多数所蔵している了仙寺。積極的に資料を貸し出していました。

25年前に下田に帰ってきましたが、了仙寺は黒船ゆかりのお寺なのに、それについての資料や絵が何もありませんでした。その頃は下田市にもなかったのです。だから、私が帰ってきてから、絵を中心とした資料を集め始めました。年々増えていて、今では3000点以上になります。資料や絵を集め始めてから3年経って、宝物館を建造し、そこに収集した資料や絵を展示しはじめました。今は、常設展示の他に企画展示をやっている、3ヶ月周期で展示替えをしています。黒船がテーマの資料について



町民とはしゃぐ米兵の図

絵：了仙寺 蔵

は、他の博物館も集めているので、私は「日本人が外国をどう見たか。外国人が日本をどう見たか」にテーマを絞って、資料を収集しています。有名なペリーの肖像画が3点ありますが、それぞれ異なった表情をしています。日本人にとってペリーを脅威だと思っていたことが読み取れます。それとは別に、町民とはしゃぐ外国人の絵があります。外国人にとっては下田の町民は人なつこい性格に映ったようです。こうして互いを見ると面白い。本堂では日本開国の逸話を話すプログラムを実施していて、そうした異文化交流につ

いて絵を見ながら解説しています。(有料・要予約・英語対応可)。



本堂で行われている昔話の様子

メディアへの資料画像の貸出も積極的に行っています。博物館などからの画像の貸出には通常2週間かかるところが、私は連絡があつたら1時間ほどで対応しています(デジタルデータのみ)。また、歴史関連の出版会社にも貸出をしています。但し、「了仙寺」のクレジットだけは入れていただいています。それをやりはじめてから、テレビ局や出版会社から問合せが増え、世の中に了仙寺の名前が出て、

今の開国ゆかりの寺として認知されたいと思います。

文化は保存だけではなく活用することが大事

下田まち遺産である了仙寺を後世に遺すために考えていることを聞きました。

7年前に山門の補修をしました。材料一つ一つに番号を書いていくなど、大変多くの工程があるので、解体だけで2ヶ月、全ての工事を終えるのに1年かかりました。勉強になったのは、工事が終わった当初、新しい材料と古い材料が混ざり、色味が違い、継ぎはぎのような外観だったことに対し、建物保存専門の研究者が「30年経ったら同じ色になりますよ」と言った一言でした。文化財は10年単位で考えないとダメなんだと思えた瞬間でした。

私は文化は使わないと腐ると思っています。建物も見せるだけでなく使うことが重要。私が学生や観光客に話すときは本堂の

中です。日本開国の原点と言える歴史的建物の中で、新しい視点から日本の異文化交流の話聞くことで過去と現在がつながります。新しいものを取り入れることは大事です。京都の良いところは保存だけではなく、新しい文化を受け入れて街に刺激を与えている。だから、古都なのに生き生きしている。下田まち遺産も新しいものを入れていくことで生きてくるのだと思います。古いものに固執せずにどんどん活用したいですね。



補修された山門

10 了仙寺

下田奉行今村伝四郎正長によって江戸時代前期に創建された日蓮宗の寺院です。嘉永7年(1854年)、下田にペリー艦隊が上陸すると、了仙寺は日米交渉の場となり、日米和親条約付録下田条約が締結されました。開国のまち下田を代表する寺院であり、我が国の幕末外交上、重要な場所として国指定史跡となっています。毎年5月にはアメリカジャズミンが白と紫の花を咲かせ、境内は芳香に包まれます。



了仙寺本堂入口



了仙寺本堂全景

11 今村三代の墓

了仙寺には、見事な五輪塔三基があります。これは江戸時代初期に奉行として下田を治め、町の発展の礎を築いた今村家三代(正長・正成・正信)の墓所であり、下田市指定文化財です。とりわけ御番所(海の関所)を整備し、浪除けを築造した第二代下田奉行今村伝四郎正長公は、善政をもって町人に接し、町に「出船入船三千艘」と呼ばれる繁栄をもたらした「下田の大恩人」として今日でも市民に敬愛され続けています。



了仙寺境内にある今村三代の墓